



Title: 日記風に二題

明日 29 日 (土) と明後日 30 日 (日)、中央図書館 2 階資料室で「真崎コレクション展」を開催します。両日とも 13 時と 15 時に、誰よりも菅江真澄に詳しい秋田県立博物館の松山修主任学芸主事によるギャラリートークがあります。ぜひお越しください。

❖10 月 19 日 (水)

中央図書館後援会主催の「図書館でホッとタイム」も数えて 27 回。今回は、高校の数学教師を長く務められた佐藤博行氏をゲストに迎えました。参加者は 13 名、素数ですね。

お話のテーマは「日常生活の中の算数と数学」。学校の講義ではないので、日々の生活の中で数や数学の考え方にもっと親しみ楽しみましょうという内容でした。加えて、大館生まれの狩野亨吉についての話も。亨吉は帝国大学数学科と文学部哲学科 (および大学院) という文理両方の学問を修め、和算の先覚者を多く発掘したことで知られます。発掘したのは安藤昌益だけではないんですね。

終了後に佐藤先生から少しお話を伺うことができました。参加者に配った資料に間違いがあり、そのために話の流れが伝わらなかったのではないかと危惧していました。資料の 3. 「数の偶然性」の (1) のところ。

2 0 1 1 3 1 1 は 3 で何回割り切れるか  
実は  $= 3 \times 3 \times 3 \times 3 \times 3 \times 3 \times 7 2 9$   
 $= 3 \times 3 1 \times 8 9$  となった。何か読めませんか

となっています。東日本大震災の日付の数字を素因数分解して遊ぶ、と言っては語弊がありますが、数字をいろいろ並べ替えて何か見えてこないかということ、数学をやる人はするらしいです。でも肝心の数字に誤りが。正しくは、

実は  $= 3 \times 3 \times 3 \times 3 \times 3 \times 3 \times 2 7 5 9$   
 $= 3^6 \times 3 1 \times 8 9$  となった。何か読めませんか

でなければなりませんでした。

ここまで聞いて私は、「なるほど、サンリクサイヤク (三陸災厄) と読めますね」と言いました。乗数 (六) は漢音読みでリクです。ところが佐藤先生の読みは違っていました。「ミロクサンヒトヤク (弥勒さん一役)」なのだそうです。衆生を救う弥勒菩薩によって、救済と希望の光を見ようとする精神は見事だと思います。しかし、二つの読みができてしかも平仄が合っているって、驚きです。

それから佐藤先生に、楽しんで読める算数・数学関係の著者を紹介してもらいました。まずはイアン・スチュアート。『魅惑と驚きの「数」たち』(SBクリエイティブ、2016年)など、中央図書館に7冊所蔵。次に日本の書き手として桜井進。『面白くて眠れなくなる数学』(PHPエディターズ・グループ、2010年)など各館

やおおとり号に合わせて9冊。意外にあるものですね。児童書もあって親子で楽しめます。

❀10月24日（月）

県北図書館協会の研修会。バスを仕立てて日帰りの移動研修です。目的地は秋田市雄和の国際教養大学（A I U）と藤里町のカフェ岳（だけ）。

国際教養大学は、今や説明の要もないくらい有名ですね。大学図書館（現在の名称は中嶋記念図書館）も大学本体に劣らず注目の的で、県産杉材を多用した半円形のコロセウム形式の美しさで多くのCMなどに登場しているのはご存じのとおり。そして驚きの24時間年中無休。建物の基本構造は、コンクリートの躯体に秋田杉（一部鉄骨）の上部構造、そして膜屋根、って大館樹海ドームと同じではないですか。蔵書は7万7千冊で意外に少ないです。もっとも、近年は内外の論文データベースが充実しているので問題ないのかもしれませんが。

自分の中では、狩野亨吉と国際教養大学はリベラル・アーツという言葉でつながるイメージがあります。説明は長くなるのでしませんが。

山里めいた教養大から文字通り山中の藤里町へ。中心街の藤琴の手前の県道沿いにカフェ岳があります。白神山地の秋田県側の世界遺産部分は全て藤里町にありますが、登山者や釣り客、観光客が立ち寄ってゆっくりコーヒーを飲めるようにと作ったカフェです。2階建ての山小屋風の拵えで、中ではかわいい薪ストーブに火が入っていました。

図書館協会の研修がなぜここに寄ったのかというと、カフェの2階が小さな図書室になっているのです。手作りの本棚には、テーマを雪と森・木材に絞って、かなりディープな書籍も並んでいます。実はこのオーナー武田英文氏は元県会議員で、全国都道府県で唯一の「秋田県民の読書活動の推進に関する条例（県読書条例）」制定を先頭に立って進めた方。私設図書室もつくとはい、筋の通ったいい話じゃありませんか。コーヒーや料理もなかなかのもの。白神観光の行き帰りにぜひお立ち寄りください。（陽）